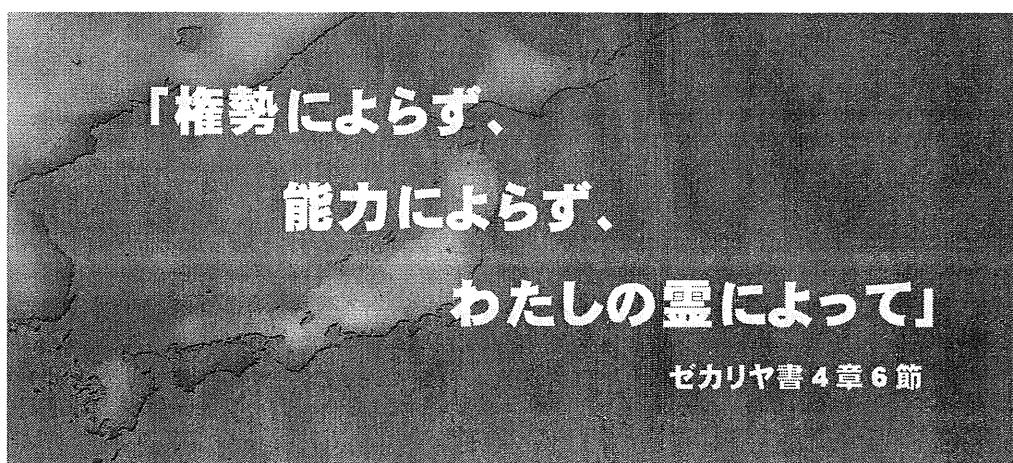


Japan Pentecostal Council ニュース

日本ペンテコステ協議会

事務局：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部内
〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20 Tel 03-3918-5935

特集：ペンテコステ信仰と牧会への取り組み



◆ イエス・キリスト福音の群

東北中央教会 永井 信義

イエス・キリスト福音の群では、その交わりの中にある教会がそれぞれ独自の形で、ペンテコステ信仰を継承する働きを進めています。

茨木キリスト福音教会（永井基呼牧師）では、毎月一回「聖靈集会」を開催、そこで聖靈のバプテスマ、満たしを求める時が持たれています。また、毎年、ペンテコステ前の十日間、朝晩の二回（計二十回）、「聖靈待望祈祷集会」が行なわれ、そこで多くの教員たちが聖靈の恵みを体験しています。

いわきホームチャペル（金本友孝牧師）では、求道の段階からオリジナルのテキスト「救いに至る五段階」を用いて、聖靈がどのような方であり、どのような働きをされるのかを説明、聖靈の働きに対して心を開くように導いています。

イエス・キリスト宮崎福音教会（高森博介牧師）では、できるだけ集会ごとに聖靈のバプテスマ、満たしを求めるミニストリーの時を持つようにしています。

東北中央教会（永井信義牧師）では、おもにアルファ・コースの中で行なわれるアルファ・ウイークエンド（もしくは、アルファ・デイ）で、「聖靈とは？」、「聖靈の働きとは？」、「聖靈に満たされるとは？」の学びと続くミニストリーの時を用いて、コースに参加しているゲストだけではなく、手伝っているクリスチヤンたちにも聖靈のバプテスマ、満たしを求める機会を提供しています。

◆ 単立ペンテコステフェローシップ

栄シャローム福音教会 小山 英児

最初にこの原稿依頼をいただいた時、「そもそもペンテコステ信仰とは何だろう?」と思いました。私は米国ワシントン州にありますアッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団のノースウェスト・カレッジ(現在はユニバーシティ)を卒業し、TPKF の栄シャローム福音教会に仕えさせていただいて今年で13年目になりました。恩師の故ペコタ教授はアッセンブリーの教職でもありましたが、私は福音主義(聖書主義)の土台の上にあるペンテコステ運動ということを先生から教えられたように思います。実際ペコタ先生は学生たちのために「福音主義の悪夢」という神のみこころに関する本まで書かれ、私たちに福音主義というアイデンティティを与えられていたと思います。もちろん「16の基本的な教理」に関しても教えられましたし、私の信仰の土台になっていますが、教えよりも聖書主義の方が自分の牧会理念の中心になっていると思います。

アリストー・マクグラス師の「キリスト教の将来」(教文館)という本の中では「ペンテコスタリズムはひとつの口伝宗教である。(中略) ペンテコスタリズムの信奉者が語るのは、自分がどのように愈されたか、自分の人生そのものがどのように変えられたかである。(中略) ペンテコスタリズムは、人生のすべてに訴える。そこには、知性に対する訴えかけも含まれている。より主流の形のキリスト教は、まず知性に訴える。」と言っています。確かに、ペンテコステの恵みの継承ということを考える時、それは教理の継承というよりも、聖霊なる神様の現実の継承ということではないかと思います。過去存在したキリストではなく、未来に再臨されるキリストではなく、今、この時、生きて働かれているキリストの現実を強調することを通して、結果的に、ペンテコステの恵みの継承ということになっているのではと思っています。

そのことを踏まえて、具体的にペンテコステの恵みを継承するために取り組んでいることの一つとして考えられることは、アルファ・コースを積極的に活用させていただいているということだと思います。特に、アルファ・コースの中心にはホーリー・スピリット・ウイークエンドというまさにペンテコステの恵みを継承する時があります。私たちの教会の中においても、アルファ・コースを通して聖霊のバプテスマを受けて異言で祈りだしたり、熱いものを感じたり、聖霊に満たされて涙を流している兄弟姉妹を見ることができました。まさに、自分の足りなさを補って余りある聖霊様の働きに驚かされました。

私の過去13年間の牧会生活を振り返りますと、問題と失敗の連続ですので、偉そうなことを言えるような立場にはありません。しかし、ペンテコステ信仰を持っていない牧会者の方が苦しめられている姿を見る時に、最終的に自分は聖霊様に信頼することができるペンテコステ信仰を持つことができたから、ここまで続けることができたように思えてなりません。「最終的には聖霊様がなんとかしてください」という聖なる楽天主義は、まさに「ペンテコステ信仰と牧会」の要ではと思います。



◆ シオン宣教団

松江福音教会 松本 光弘

私たちの教会は、山陰の古都松江に開拓の産声をあげました。地域には比較的多くの教会がありましたが、ペンテコステ教会は市内には無く、既存のキリスト教会でない聖霊の豊かな流れの教会を目指して伝道牧会をスタートさせました。初めは、一般の仕事との二足のわらじでの牧会伝道がスタートでした。初期の頃は、ペンテコステ教会としての特徴を出すのには色々と苦心しました。集われる方々は、それぞれ教会をイメージして来られるわけで、こちらが聖霊を受けていただきたいと思ってもなかなかそのような雰囲気になりませんでした。開拓5年頃のある時、礼拝の後で一人一人に手を置いて祝福のお祈りをしておりました。その後、そこにいた一人の姉妹が『あれから教会に入りづらくなった』と言うのです。開拓の教会がペンテコステの恵みの中に入って行くにはとても困難を覚えたものです。

そんな中で、私たちには教団の聖会が大きな助けでした。そこには聖霊の豊かな臨在が溢れ、私たちの教会からも参加者が次第に増えていきました。参加した者たちの恵みが教会にどんどんもたらされ、当初は、ギター一本で聖歌を中心とした礼拝でしたが、次第に自由に賛美礼拝を捧げるペンテコステ教会と変えられていきました。

先般、リバイバル新聞の第一面に『弟子育成を再検証』との見出しの記事がありました。小見出しには『間違っていた』との文言。何が間違っているのかと、興味深く記事の中身を読み進めると、「私たちは長い間、人々が教会活動に参加すればするほど靈的に成長すると信じていた。だが違った。」というのです。そうではなく、「人々がクリスチャンになった時、彼らに『自分で養える人』となる責任をもちなさいと教えるべきだった」とありました。この記事から今後の方針付けが与えられました。ただ、闇雲にプログラムを進めるのではなく、プログラムに参加していれば恵まれているものと錯覚するのでもないことを。

私も開拓当初から、弟子育成には大きな関心がありました。初心者の兄姉にそのレベルに併せて勉強会を開いたりもしました。献身者が与えられると、教会内で聖書塾を開講し週に4時間の授業を展開しました。5, 6年は続けたでしょうか？CSの働きでは、夏休みの終わりにイベントを開催したり、夏のキャンプも5, 6年続きました。セルの働きも導入し、熱心な婦人たちがそれに賛同してくれました。自由な形の賛美集会も2年くらい続いたでしょうか？小さな群れですが、これまでの約20年間にあらゆる取り組みにチャレンジしてきました。

そして得た結論ですが、人間的な思惑で始めたプログラムではなく、それらを一度壊して聖霊さまが願っておられるものを、祈り求め始めて行かねばならないということです。これからに大いに期待しております。

「そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。」使徒1:4



◆ 日本オープンバイブル教団

神戸キリスト栄光教会 菅原 亘

ペンテコステの信仰は本質的に元気が良い、パワフルである、聖書の約束が今も現実に起こることを信じているわけですから、当然情熱的になるのだと思います。礼拝のスタイルも初めて教会の門をくぐった人にとっては違和感を与えることもあるのです。教会になじみのない多くの日本人は、莊厳な雰囲気のカトリック教会をイメージしているので、「ここが教会ですか、イメージと随分違っていました。みなさんとても元気がいいですね」と言う回答が返って来ます。でも「教会とはこんなものなのか」とイメージは違っていても、柔軟に受け入れてくださることもよくあります。続けて来てくださることを祈り願うばかりです。元気な賛美に付いて行けただろうか、躊躇してはいなかろうか、メッセージは理解してくれただろうか、良い印象を持ってくださっただろうか、と思いは次回にもリピーターとしてつながってくださるだろうかと言うことに心が向きます。

リピーターの獲得こそ牧会、伝道の最大関心事です。世のビジネスでもレストラン、集客産業、商店ではリピーターをどのように確保するかが最大のテーマです。「もう一度行って見ようかな」と思わせることは容易なことではありません。企業ではリピーター確保のために最高の知恵とエネルギーと金銭を投資しますが、教会ではどうなのでしょうか。特に教会の伝道ではクリスチャンの友人に誘われて、一度は義理を果たして礼拝に来てくれた人を何回も足を運んでもらうための工夫は本当に重要です。魅力ある教会のありかたについては気を使い、頭を使い、考えなければなりません。礼拝や集会と言う祭典の魅力を聖霊様と共に演出することがですが、力強さは魅力です。癒しも人々を魅了します。このような神様から来る賜物と同時に、教会は安心できるところであると言う人間関係を提供すること、さらに新しい人が自分の居場所を見つけることが出来るように、早くお客様の意識から脱却して教会の一員であること、仲間であることを意識付けること、に精力を注ぐことが重要です。

伝道と牧会だけでは教会は前進しません。群を組織し形成することが最重要課題です。「出産と育児」のタイトルで多くの書物が出版されているのですが、更に「教育、家族関係、良い社会人」へと発展して行かねばなりません。教会においては「出産は伝道」、「育児は牧会」と言えると思います。牧会と言うのは指導者と信徒との個人的な関係がうまくいっているかそうでないかと言うことにつきますが、更に関係は発展し、ビジョンを共有し、共に働く同士として分かち合う意識まで発展させることが大切です。

ペンテコステ信仰の教会の特徴は聖霊様の人格を具体的に認めることにあります。日常生活の中で聖霊様の人格を受け入れ、いつもそばに居てくださる神様として意識して、語りかけて交わることです。「聖霊様とご一緒に判断し、決断し、行動し、キリストの栄光を現して参りましょう。聖霊様ご一緒に信徒に関わって参りましょう。聖霊様ご一緒に牧会と群の形成をして参りましょう」と毎日告白して、牧会において信徒と関わって行くようになっています。そして良好な関係を保ちつつ、全体の構想に参画していただき、群の形成を完成させていくのです。牧会は牧師と信徒の縦の関係から、更に信徒と信徒の良好な関係へと横のフラット関係へと移行させて行くことが出来れば成功だと思います。

◆ フォースクエア福音教団

秋津福音教会 小坂(高) 叡華

来年はプロテスタント宣教 150 年の記念の年です。その準備委員会が発足してそこに参加させていただいているが、そのメンバーにはこれまでにない教会・団体が参加しています。福音派 (JEA)、日本キリスト教団 (NCC 系)、ペンテコステ協議会、NRA、セブンスデーアドベンチスト教会、聖公会、ミッションスクールや社会福祉団体など、これまで超教派の委員会といつてもこれほどまでに幅広く顔を揃えることはなかったように思います。「キリストにあってひとつ」というテーマが掲げられ催しが計画されています。30 年以上前には、ペンテコステ信仰の教会は差別的に扱われ、心を痛めたクリスチャンも多かったです。日本のキリスト教界も大きな変化を遂げてきたという実感をもちました。この間に教派を超えて聖霊の恵みに預かる教会や教職が増えたことも大きな要因なのでしょう。

と言いながらも、日本の教会の実態はどうでしょうか。150 年も経ったのにクリスチャン人口は日本の人口の 1% にも満たないのです。そしてその信仰の情熱は 450 年前、日本に初めて宣教が開始された時代の迫害にあったクリスチャンよりも薄れているようです。一方、21 世紀に入ってからの世界は年々に混乱を増しています。経済はもとより、政治や教育、行政や軍事、医療や自然環境に至るまでグローバル化に伴う世界規模での異変や混乱・膠着が起きているのです。世界同時不況が心配される時代なのです。このような終末の時代に直面しているキリストの教会はどのように宣教するべきなのでしょうか。

その鍵は「もう一度原点に戻る」ことだと信じます。数ヶ月前にクリスチャン新聞が「教会の閉塞感」というアンケート調査をしました。確かに教会は様々な面で閉塞感を感じています。会員数だけでなく、教会財政や教会運営、後継者問題においても行き詰まりを感じる牧師が多いと思います。又、キリストの体を模範とする教会形成を望みながら、悩んでいる牧師は更に多いと思います。様々なセミナーや聖会、伝道会も大切な働きです。しかし、私たちはもう一度原点に戻り、最初に宣教に遣わされた使徒たちの情熱と愛を取り戻さなければなりません。愛と救い、キリストの権威と力に満ちた教会を建て上げるために、教会が生まれた時点に帰る必要を覚えます。

復活されたイエスさまがまっさきに弟子たちに伝えたのは「よみがえってから、あなた方より先に、ガリラヤへ行きます。」(マルコ 14:28、16:7 他) というお言葉でした。そこはかつて弟子たちを「人間を獲る漁師にしてあげよう」と召された場所です。同じ場所でもう一度、弱った弟子たちに召しの確認をされなければなりませんでした。イエスさまは聖霊のバプテスマを勧め、十字架と復活の証人であるという確信を与えて働き (マルコ 16:15) へと再任命をされました。その後、ペンテコステの日に約束の聖霊を受けた弟子達はイエスへの愛と、使命への情熱に燃やされ、勢いを増して恐れずに人々の中に出で行きました。今日の教会は、ペンテコステの恵みに満たされた弟子たちのように、愛と慰めと力の源である聖霊の導きによって再度遣わされる時ではないでしょうか。

日本フォースクエア福音教団は 2010 年に宣教 60 周年を迎えます。現在は北海道から沖縄まで、日本人、ブラジル人、アメリカ人、フィリピン人、韓国

人、ペルーなどの教職 84 名が肩を並べて非常にユニークでグローバルな伝道をしています。国柄や文化によって多少の違いはありますが皆が聖靈に信頼し、その御業を重んじる教会形成に励んでいます。理事会では記念大会にジャック・ハイフォード博士を迎えて「教会は、聖靈に励まされて前進し続けた。」(使徒 9:31) の御言葉をテーマに聖靈に押し出される宣教を推進しようと計画しています。それは各教会が積極的に、信徒たちに聖靈のバプテスマを勧め、十字架と復活の証人として、世に送り出す準備に他なりません。占いや偶像、人の権威に頼る人々に、キリストの愛と救いと権威を明確に著わすペンテコステ信仰の教会が日本には必要です。



◆ 神の家族キリスト教会
「豊かな収穫の時」

クリスチャンライフ 水野 明廣

混沌を極める今こそ、クリスチャンである私たちにとって最高の機会と言う出番がやってきている、と信じます。主が私たちに与えておられる教会のための特徴とは、「誰でも活かされ・・用いられる。」の標語であって、このような社会の状況では、主の光となり、地の塩としての役割が一層求められていると思います。しかも 2008 年はイスラエル暦 5768 年でもあり、躍進と刷新とを強調する意味のある数字であって、歴史的に見ても、これからは、これまで以上に創造者である私たちの神ご自身が強く私たちに介入してくださる季節がやって来た意味にもなります。

そこでまず第一に、時を悟り、何をなすべきかを知って主と主の民に仕えたイッサカル族のように（I 歴代 12：32）、この国が主の憐れみと恵みの時を逃す事のないように、さらに熱くとりなし祈りながら、魂の収穫に関わる事に、いのちの救いに関わる事に進んで関わり行動する。

次に、今年に対する主の御言葉として、「私の上に主の御靈がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、私に油を注がれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕らわれ人には赦免を、盲人には目の開かれる事を告げるために。しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために。」（ルカ 4：18－19）の聖句が確認されているので、今まで以上に積極的に主の福音を直接的にお伝えし、イエス様に習って人々の解放といやしのために聖靈に頼って主の御用に参加する。

三つ目には、私たちには聖靈の賜物がすべての人々の益になるために与えられているので（I コリント 12：4－11）、この賜物が生かされ用いられるために、家の教会に属して、その中で自分を主に明け渡しながら、人々が自由にされて用いられる為に主の恵みの務めを実行していく。

これらの事柄は、自分自身の力では出来なくても、いつも共にいてくださる主の力、聖靈の力では出来るのですから、聖靈に励まして、いのちが救われるという魂の収穫のために、今年は更に大きく前進させていただける事を期待しながら、共に主に仕えさせていただきましょう。

◆ 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
シティビジョン・グローリーチャーチ 増田 哲之

開拓の第1歩は、1983年8月頃より私たちの部屋で祈り始めた祈り会でした。「日本のリバイバルに貢献できる聖霊の働きの豊かな教会を建設させてください。」と祈り始めました。1984年1月には妻の実家の居間で初めての礼拝を持ちました。義父、義母、妻、長男（0歳）と私の5人でした。「聖霊の働きの豊かなリバイバルの教会を建設させてください。ペテロの説教で3000人が救われ、最初の初代教会が建設されたように、『初代教会のような、聖書的力強い3000人の教会』をつくらせてください。」と祈りました。これが、シティビジョン・グローリーチャーチのビジョンとなり、DNAとなりました。「祈ればなる」との実に単純な信仰を握り、スタートをしました。宣教方策は、「祈りと主の臨在のある礼拝」、「祈りの力、靈的戦い」、「受洗、聖霊のバプテスマを受けることを目指す」、「しるしと不思議、いやしによる宣教」、「経済への信仰、什一返金の実践」、「セルを通しての宣教」としました。主が初代教会の時のように、教会の中でも働きかけ、人々がそれを体験できるようにと信じました。毎年のように韓国祈祷院で、15日間、14日間、10日間、7日間というような期間での断食祈祷をし、しるし、不思議が教会で現れるように祈り求めました。すると、最初の年から、いやしの働きが現れるようになりました。人々は、問題、病があると「教会に行きましょう、祈りましょう。」と自然に言うようになりました。

不調で礼拝に来た方が、礼拝後には元気になって帰宅するという感じです。また、何年もの慢性病が礼拝に出席する中で、自然と癒されて、本人も病を忘れてしまうようなことが起こりました。

教会が祈りの空気で満たされると、人々はすぐに救われ、受靈し異言で祈るようになりました。4回礼拝出席すると、救われ、洗礼へと導けるように思われました。それについて、靈的な戦いも顕著になり、ある兄弟を通して、何時間にも及ぶ悪霊の追い出しを体験しました。人が救われ神の国に入れられることは、実際に闇の勢力との靈的戦いであることを悟らされました。

人々が救われ加えられるにつれて、「救われ、いやされ、育成され、訓練され、神の兵士として宣教の働きに参加していく」とのサイクルが作られる必要を感じました。育成の段階で、律法的傾向となったり、何もできませんとの姿勢となったり、心の領域を変化させる何かが必要であることは確かでした。カウンセリング、インナーヒーリング、リニューアルと、様々なことを学び、教会にも導入しましたが、2001年エリヤハウス祈りのミニストリーに出会い、心の領域を扱い、健康的成熟に向かうことができる道が示されたように思います。これは、聖書そのものを用いて、聖霊様に聞きながら心の深い傷を扱っていく働きです。私自身の心においても、この働きで変化を体験することができました。この働きを通して、様々な心の弱さの問題が生じても、対処して育成することができるようになりました。

ある時期、祈っているとA兄弟の姿が見えました。なんだろうと思っていますと、そのうちに「教会にある悪が暴露されますように」との祈りに導かれました。A兄弟は惡意は無かったのですが、心の歪みから、「牧師先生のリーダーシップに従わなくともよい、自分の方が正しい」という、アブシャロムのような批判の靈に用いられていたのです。その影響を受けた兄弟姉妹は、体調不良、靈的不調、

心の不安定と影響が顕著に現れ、この靈の働きが暴露されてしまいました。教会が混乱と分裂から守られた時でした。主が教会を愛し、守っておられることを感じた時でもありました。

教会は、横浜市旭区の貸家、相鉄会議室、まこと幼稚園、横浜市中区関内のビルテナントと、会堂を移り、2006年、執り成しの祈りの中で、長らく求めていた土地建物（鉄骨3階建て、土地130坪 改築を含め1億7000万円）を横浜市旭区上川井に購入することができました。日本における健康で力強く影響力のあるモデル教会を目指して、主の恵みの中に進みたいと願っております。

◆ 日本チャーチオブゴッド教団

東京ライトハウスチャーチ 八東 和心

「この後、わたしは帰って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。すなわち廃墟と化した幕屋を建て直し、それを元どおりにする。それは、残った人々、すなわち、わたしの名で呼ばれる異邦人がみな、主を求めるようになるためである。」
(使徒 15:16~17)

真の新約的教会を建てることは、倒れたダビデの幕屋を建て直すことだと教えられています。ダビデは、神の臨在を心から慕い求め、神の臨在が永遠にとどまるようにと神殿建設を願いました。神は、ダビデが賛美と祈りを通して、神の臨在を慕い求める情熱に溢れているゆえに、様々な試練やダビデ自身の失敗の中であっても、ダビデとその家系を祝福してくださいました。

どの分野でもプロと呼ばれる人々が基本を大切にし、基本を何度も磨くように、私たちの教会では、祈りと賛美を強調し、何度も何度もその重要性を講壇から語ってきました。そして、毎週の礼拝や祈祷会、そして特別な聖会などでも、神の臨在を慕い求める祈りと賛美を他の何よりも強調しています。

「すべての祈りと願いを用いて、どんな時にも御靈によって祈りなさい。」(エペソ 6:18) 聖靈様の助けの中で、あらゆる時に神の前にひざをかがめること、教会はひざで前進することを教えています。そして、すべての祈り、すなわち、嘆願の祈り、執り成しの祈り、そして、神との交わりの祈りを勧めます。神は私たちが一致して祈ることを通して、私たちに力と知恵を与えてくださっています。

「私はあらゆる時に主をほめたたえる。私の口には、いつも、主への賛美がある。」(詩篇 34:1) 神は賛美されるに相応しいお方であり、私たちの賛美を喜んでくださること、そして、私たちは、賛美を捧げるために新約の祭司として造り変えられたことを強調します。そして、神を賛美するときに、イスラエルの賛美の中に住まわれる神の臨在は豊かに訪れ、私たちの実際生活の中に、救い、勝利、解放を与えてくださっています。

プロが基本を磨き続けるように、神の民も祈りと賛美という基本を磨き続ける必要があります。神の前に祈り、賛美し、神の臨在を求め続けるならば、神は聖靈の大雨を豊かに降らせてくださいます。そして、神の臨在の豊かな教会には、異邦人が神を求めて集まり、人々は救われ、癒され、解放されていくと信じます。これからも、ダビデの幕屋が回復され、日本にリバイバルが起こると信じて、なお、祈りと賛美によって前進してまいりたいと願っております。

◆ ネクスト・タウンズ・ミッション

関東栄光教会 三坂 正治

ネクスト・タウンズ・ミッションの全盛期においては、ユースキャンプや聖会に未信者の参加者も多く、その期間中に涙の悔い改めによる救い、受洗、受靈し、使徒の働き2章38節の「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖靈を受けるでしょう。」というみことばの実現を見るのが常でした。聖靈の満たしにおいて異言を語ることは、靈において神と語ることであり、神と交わることであり、そこから無尽蔵の力が注がれるのですから、異言を語ることに鍵があると言えるでしょう。それゆえに献身まで決意して、今も宣教の働きに携わっている者もいます。さらに開拓伝道を始める宣教師の働きを助ける為に、教会の青年を連れて行った先々に教会が誕生し、現在もそれぞれの地域において教会が確立されている事や、また献身して行った器たちによっても教会が幾つも建設されました。

ところが今日、年齢が進み、諸般の事情も重なることにより、その勢いは弱まっている現状です。そこで今、宣教力アップに向けて、牽引力、機動力、持久力のもとである原動力アップが問われます。では、その原動力の源はどこにあるのでしょうか。「イスラエルの神こそ、力と勢いを御民にお与えになる方です。ほむべきかな。神。」(詩篇68:35)、「しかし、あなたは私の角を野牛の角のように高く上げ、私に新しい油を注がれました。」(詩篇92:10)

ウイリアム・ケアリーは言いました。「大いなる事を、神より期待し、大いなる事を、神の為に企画せよ。」世界の至る所で主の訪れのみわざを矢継ぎ早に耳にする昨今、「祈りに耳を傾け、この国を祝福してください。この国を訪れてください。全能の神よ。主を求め、あがめる時。」と、かつての純粹な神に向かう姿勢でもう一度、神の御前にひざまずき、新しい力に交換されることの必要を痛感させられています。

教会拡充の要因として、様々の手段や方法があると思いますが、その中の一つ、「アンデレ伝道」をテーマに現在取り組んでいます。アンデレ伝道を通して救いに導かれて来る人々が成長し、整えられて、結婚に導かれ、ひとつの家族が誕生し、成長することでなつめやしの木のように栄えるのです。一家族という株が二世、三世と、幾つもの家族に増えていきます。アンデレ伝道でもう一つ言える事は、ひとりの神の器を生み出す事より、もう一つの教会が誕生するという方法です。神にとって高齢化も倦み疲れることもないですから、新鮮な勢いに満たされることを求めるものです。



◆ 日本ペンテコステ教団

エリムキリスト教会 榮 義之

サボテンは、乾燥地帯に自生する植物で葉や茎、根に水分や養分を蓄えられる多肉質の植物です。ほとんど雨の降らない砂漠地帯で生き抜く植物こそがサボテンです。サボテンはアメリカ、メキシコ、中米等、南北アメリカ大陸全土をカバーしており、どこでも暑くても寒くても生き延びることができ、今では世界中で育てられています。

イエス・キリストを信じると救われ、キリストのからだである教員となり、神の栄光を現すクリスチャンとして成長することを祈り願っています。使徒パウロも次のように言いました。「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。植える者と水を注ぐ者は、一つですが、それぞれ自分自身の働きに従って自分自身の報酬を受けるのです。私たちは神の協力者であり、あなたがたは神の畠、神の建物です。与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。そして、ほかの人がその上に家を建てています。しかし、どのように建てるかについてはそれが注意しなければなりません。というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。」(Iコリント3：6—11)

第一に、聖書信仰の確立を願っています。神のことばは生きていて力があり(ヘブル4：12)ます。イエス・キリストによってことごとく「しかり」となった神のことばに、アーメンと告白すれば神の栄光が現われます。そのためにデボーション確立、テレフォン・メッセージ(37年継続中)、今年よりインターネット画像メッセージを毎日配信、ラジオ放送(36年継続中)などで励まし続けています。

第二に、聖霊のバプテスマと日常茶飯事の中で、聖霊の満たしと導きをしっかりと受け止め迷わない信仰生活を、サボテンのように逞しく生き抜くクリスチャンとなるよう祈っています。

第三に、「アーメンと言えば救われる！」をモットーに、世界宣教と日本全国にイエス・キリストの十字架の福音を伝えるクリスチャンをと祈り願っています。「この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです。」(コロサイ1：6)具体的には、アフリカ宣教(孤児院運営)と、ラジオ放送、パソコン配信、テレフォン・メッセージ、文書伝道、可能な限りの方法で伝道を展開しています。

第四に、「「しかり。わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。」(黙示録22：20)と主イエス様の約束を信じて、再臨を待望する健全なクリスチャンとなることを願いながら、牧会伝道に励みつつ日々です。

第五に、今年の教会のテーマは、「みことばと聖霊に満たされて100倍の祝福を！」と掲げています。「イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を見た。【主】が彼を祝福してくださったのである。」(創世記26：12)

日本ペンテコステ協議会 規約

- 1) 本会は、名称『日本ペンテコステ協議会』(Japan Pentecostal Council 略称 JPC) とする。
- 2) 事務局
本協議会の事務局を日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部に置く。
- 3) 目的
本協議会の目的は、日本におけるペンテコステ信仰の健全な成長と発展を促進するために、ペンテコステの教団及び教団に準ずるグループの指導者・教職者間における交流を深め、情報交換および相互理解を図り、教職研修を行うことにある。
- 4) 信仰宣言
本協議会の構成員は、以下の信仰宣言を告白するものとする。
 1. わたしたちは、聖書が靈感された、唯一の誤りのない権威ある神の言葉であることを信じる。
 2. わたしたちは、父と子と聖霊の三位において永遠に存在される唯一の神を信じる。
 3. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの神性、処女降誕、罪のない生涯、奇跡、十字架の血による代償的贖罪的犠牲、肉体をもっての復活、父の右の座への高挙、また、力と栄光の中での再臨を信じる。
 4. わたしたちは、失われた罪人の救いのためには、みことばと聖霊による新生が不可欠であると信じる。
 5. わたしたちは、異言の証拠を伴う聖霊のバプテスマを信じる。
 6. わたしたちは、聖霊の今日的働きによる肉体の癒し、および種々の聖霊の賜物を信じる。
 7. わたしたちは、聖霊の内住によって清い敬虔な生活が可能となることを信じる。
 8. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストにおける信者の靈的一致を信じる。
 9. わたしたちは、聖徒の復活、失われた者の審判、新天新地を信じる。

5) 活動

定期的に会議を開催し、各教団及びグループの指導者・教職間の交流、意見・情報の交換、その他必要な活動を行う。広報誌と機関紙を発行する。

6) 総会

本協議会は最高議決機関として総会を置く。総会は、加盟教団にそれぞれの教会数に応じて割り当てられた数の代議員によって構成する。

50 教会以下 代議員 1名

51～100 教会 代議員 2名

101 教会以上 代議員 3名

7) 役員

本協議会に議長、副議長、書記、会計を置き、その任期を3年とする。役員会は議長によって招集され、定期的に開催する。

8) 経費

本協議会の経費は、加入団体の負担とする。

9) 附則

本規約は、1998年5月29日より実施する。この規約の変更は総会の議決を経て実施する。

— 以 上 —

日本ペンテコステ協議会 役員会
(2008年5月現在)

議長： 内村撒母耳（日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 理事長）

副議長： 八東 和心（日本チャーチ オブ ゴッド教団 監督）

副議長： 中見 透（単立ペンテコステ教会フェローシップ 代表）

書記： 永井 信義（イエス・キリスト福音の群 代表）

会計： 船津 行雄（日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 理事）



日本ペンテコステ協議会 加盟団体一覧

(各教団代表者は、2008年5月現在)

* 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

理事長 内村 撒母耳

連絡先：日本AOG教団本部 〒170-0003 東京都豊島区駒込 3-15-20

TEL. 03-3918-5935 FAX. 03-3918-0474

* 日本ネクストタウンズ・ミッション

代表 三坂 正治

連絡先：関東栄光教会 〒196-0003 東京都昭島市松原町 3-10-8

TEL. 042-541-4211 FAX. 042-541-9215

* 単立ペンテコステ教会フェローシップ

代表 中見 透

連絡先：御殿場純福音教会 〒412-0024 静岡県御殿場市東山 711-24

TEL. 0550-82-2872 FAX. 0550-82-7233

* 日本オープンバイブル教団

代表 菅原 亘

連絡先：神戸リスト栄光教会 〒653-0845 兵庫県神戸市長田区戸崎通 3-9-12

TEL. 078-612-5511 FAX. 078-621-5513

* シオン宣教団

代表 松本 光弘

連絡先：松江福音教会 〒690-0001 島根県松江市東朝日町 206-4

TEL&FAX. 0852-31-9368

* イエス・キリスト福音の群

代表 永井 信義

連絡先：東北中央教会

〒981-3604 宮城県黒川郡大衡村ヨヌベルタウン

TEL. 022-345-2991 FAX. 022-345-2992

* 日本ペンテコステ教団

代表 榎 義之

連絡先：生駒聖書学院

〒630-0243 奈良県生駒市俵口町 951

TEL. 0743-74-7622 FAX. 0743-74-9672

* 神の家族キリスト教会

代表 水野 明廣

連絡先：クリスチャンライフ 〒464-0094 愛知県名古屋市千種区赤坂町 4-64

TEL. 052-721-7831 FAX. 052-721-7625

* 日本フォーススクエア福音教団

代表 比嘉 幹房

連絡先：沖縄新生教会

〒901-0361 沖縄県糸満市糸満 626

TEL&FAX. 098-994-2343

* 日本チャーチ オブ ゴッド教団

監督 八東 和心

連絡先：東京ライトハウスチャーチ

〒146-0093 東京都大田区矢口 2-1-18

TEL. 03-3758-1625 FAX. 03-3758-1647

日本ペンテコステ協議会 会計報告

2006年11月28日～2007年10月31日

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
負担金	※1 450,000	総会	11,108
総会会費	12,000	役員会	57,700
研修会会費	106,000	研修会	134,122
		PWF 参加費 JPC 負担分	※2 100,000
		PWF 負担金	62,585
		新聞広告	※3 35,700
		事務諸費	24,308
小計	568,000	小計	425,523
前年度 繰越金	841,929	現在残高	984,406
合計	1,409,929	合計	1,409,929

注※1：日本オープンバイブル教団 30,000円
 単立ペンテコステ教会フェローシップ 40,000円
 日本チャーチオブゴッド教団 50,000円
 日本ペンテコステ教団 30,000円
 日本フォースクエア福音教団 20,000円
 シオン宣教団 30,000円
 日本ネクストタウンズ・ミッショն 100,000円
 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 150,000円

注※2 Pentecostal World Fellowship (JPC 負担分) 100,000円
 (インドネシア・スラバヤにて内村議長出席)

注※3 クリストチャン新聞：クリスマス特集 35,700円

会計 船津 行雄

JPCニュース第5号は、各教団での「ペンテコステ信仰と牧会への取り組み」について原稿を寄せていただきました。ご協力いただきました教団の諸先生方に、心より御礼申し上げます。皆様の祝福を心よりお祈り申し上げます。

編集担当